

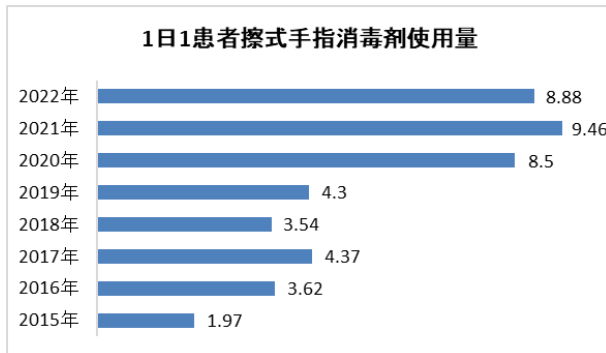
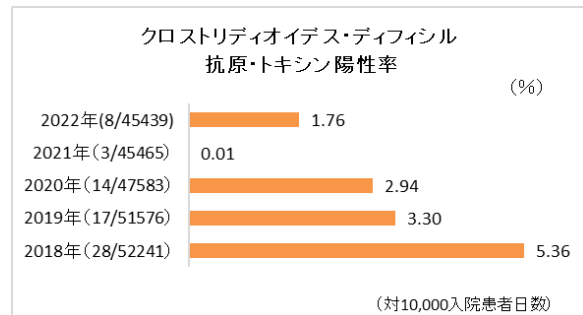
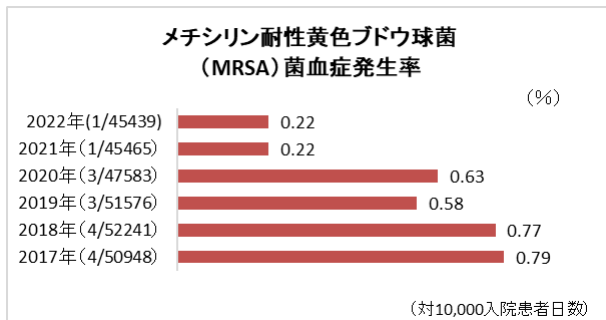
感染対策室統計

1) 抗菌薬の適正使用と微生物検査結果の活用を推進

広域抗菌薬（カルバペネム系薬・グリコペプチド系薬・ニューキノロン系薬）のモニタリングし、入院経過・感受性結果などから抗菌薬の適正使用に向けた改善活動を行っている。

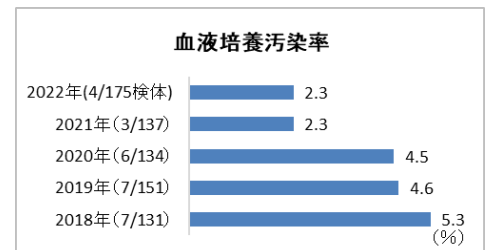
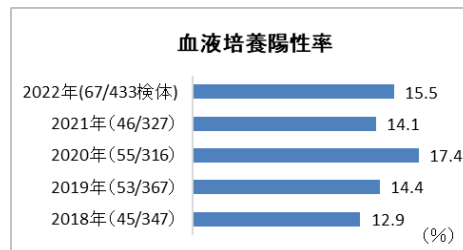
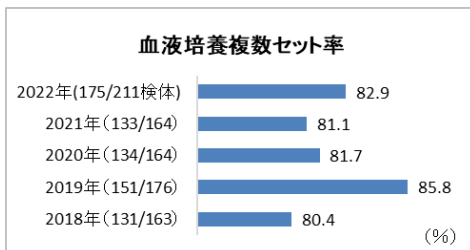
2) 標準予防策の実践

MRSA 菌血症発生率・CD 陽性率は、顕著な減少を維持している。これらは、標準予防策（手指衛生・環境整備・個人防護具の適正使用）実践の効果であり、COVID-19 パンデミックによる意識の高まりと継続した実践が行われているものとする。今後は COVID-19 対策緩和後も、標準予防策の継続した実践活動を推進していきたい。



3) 微生物検査精度の向上

発熱時の血液培養検体提出数はコロナの陰性の確認と同時に提出されるようになり、急増した。複数セット率は80%以上維持し、汚染率・陽性率などに変化はみられなかった。



4) 新興感染症への柔軟な対応

新型コロナウイルス感染症について地域の重点医療機関としての役割を担った。コロナ陽性者の入院・透析・外来点滴・2次トリアージ外来の受入れ、コロナワクチン接種の推進を行った。今後は、5類へ移行後の対応策について安全で安心な医療の提供が継続できるよう、検討を重ねていきたい。